



# 西久保大輔氏

(株)カオリメゾン 代表取締役

ある日たまたま観た映画が、人生を変えることもある。大学卒業後、3年間サラリーマン生活を送っていた西久保大輔氏が2009年に独立し、(株)カオリメゾンを設立したのは、“香り”を題材にした1本の外国映画がきっかけだった。思い立ったらすぐに行動に移すアクティブさと、パッケージなどの見た目ではなくあくまで“香り”を重視するこだわりをもつ。そんな西久保社長の仕事観と、ホテル客室向け製品「スピディフューザー」の魅力について、話を伺った。

▶ 映画がきっかけで“香り”に興味  
すぐに独立して会社を起業

—カオリメゾンを起業したいきさつを教えてください。

**西久保** 大学卒業後に半導体を扱う商社で3年間サラリーマンをしていました。当時は独立起業にはまったく関心がなかったのですが、たまたま観た外国映画『パフューム ある人殺しの物語』の影響で、香りというものに興味をもつようになりました。調香師を主人公としたサスペンス映画なのですが、香りが人間のイマジネーションに与える効果や影響なども描かれていて、とても面白かったのです。

“目に見えるもの”や“耳に聞こえるもの”は、誰が見聞きしても同じように見え、聞こえますが、香りはそれを嗅ぐ人によって感じ方が大きく異なります。これは面白い、自分でも人のイマジネーションを刺激するような香りをつくってみたいと思うようになりました。

—思い立ってすぐに、会社を辞めて起業したのですか。

**西久保** 本当はもう少し先にしようと考えていたのですが、たまたま社内で転勤の話が出たので、これもひとつの契機だと考えて退職を決意。すぐに会社を登記して、少々見切り発車のような形でスタートしました。

—当初は香水メーカーとしてのスター

トだったのですか。

**西久保** OEMで外部に委託するスタイルをとっていたのですが、試作段階で私がイメージするものがなかなかできず、香水づくりの難しさを痛感し、いったん手を引くことにしました。

それでも何か“香り”に関連した商売をしたいと考えていたとき、たまたま入った書店で出会った『「香り」で売る！ビジネスを成功に導く香りのブランディング』という本に、興味をもったのです。ビジネスのさまざまなシーンで“香り”を活用することで競合との差別化を図るという内容で、とても共感することができました。その本の著者が、アメリカ製業務用ディフューザーの日本企業向けレンタル事業を展開する会社の副社長さんであることを知り、すぐに「うちの会社で扱わせてください」と連絡を入れました。当時その会社は、業務用ディフューザーを手がけたばかりで拡販に力を入れており、弊社のような小さな会社でも小ロットから扱わせていただくことになりました。

—当時の納入先は。

**西久保** 最初は介護施設を中心に営業をかけたのですが、あまりうまくいきませんでした。そこで考え方を換え、Webからの集客に力を注ぎ、プル型の営業にスタイルを変えてから、徐々に弊社の製品を導入していただけるようになりました。

▶ 機器自体は目立たせず  
あくまで“香り”で勝負

—現在の主な製品ラインナップは。

**西久保** 前述のアメリカ製業務用ディフューザー「AirQ (エアキュー)」と、自社開発でスティックタイプの「リードディフューザー」、そして昨年のレジャーホテルフェアにも出品させていただいた「スピディフューザー」の3種類です。各製品の位置づけとしては、「リードディフューザー」は個人やご家庭向け。「スピディフューザー」はホテル客室などを想定した業務用。「AirQ」はもう少し広いスペースをカバーでき、各種商業施設などでの使用を想定しています。

—ホテル客室向けに開発された「スピディフューザー」の特徴を、改めてお聞かせください。

**西久保** 宿泊施設のなかでもとくに非日常性が求められるレジャーホテルにおいて、香りは空間演出上、重要な位置づけになりますが、香りを発生させる装置自体はあくまで黒子であり、目立たない存在でなければいけません。弊社の「スピディフューザー」はコンパクトサイズで、壁面にも取り付けることができ、設置場所を選びません。本体カラーも5種類から選べるので、客室装飾に溶け込み、空間演出の妨げになりません。

また、フレグランス成分の放出量を簡単に調節できるので、部屋の広さや設置

## 香りは嗅ぐ人によって感じ方が大きく異なります。 人のイマジネーションを刺激する香りにこだわりたい。



1983年奈良県生まれ。立命館アジア太平洋大学卒業後、半導体を扱う商社に入社。3年間務めた後、2009年に独立起業して(株)カオリメゾンの代表取締役社長に就任。

会社名/ (株)カオリメゾン  
住所/ 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-13-14 ストーク千駄ヶ谷清和601  
連絡先/ 03-6721-1475  
設立/ 2009年2月17日  
業務内容/ アロマディフューザー(業務用芳香拡散機)のレンタル・販売、香料の販売、雑貨の企画・販売



ホテル客室向け「スピディフューザー」(写真左上)は、直径86×高さ70mmのコンパクトサイズで、5種類のカラーを用意(写真下)。フレグランスはカートリッジ式で(写真右上)、約1ヶ月間香りが持続する。現在は12種類のフレグランスを用意しており、簡単に交換が可能。

場所に合わせた香りの演出が可能です。電池や電源を必要とせず、フレグランスはカートリッジ式で入れ替えが可能であり、導入されるホテルさまにとっても、管理もしやすい仕様となっています。

—「スピディフューザー」はどのような経緯で自社開発するようになったのですか。

**西久保** 「スピディフューザー」に先立って、「リードディフューザー」の開発を手がけはじめたのですが、個人向け製品の場合はパッケージや容器など、最終的にゴミとして捨てられてしまう部分にも大きなコストをかけなければならず、香りにこだわりたい自分としてはジレンマを感じていました。

その点、業務用の「スピディフューザー」は、あくまで香りだけで勝負できますし、お客さまにとっても利用しやすい商品となっています。

さまざまなホテルに導入させていただくことで、お客さまの声をいただく機会が増え、商品にも改良を加えてよりよいものをつくっていきたいと思います。

▶ B to Bの業務用機器にこだわり  
先端技術との融合にも関心

—プライベートでも香りにこだわることはありますか。

**西久保** 流行の香りを探るために香水を購入することはありますが、鼻を敏感に保つため、自宅で香りがするものは使用していません。

—オフの時間はどのように過ごしていますか。

**西久保** 家では海外ドラマをよく観ています。音楽を聞くことも好きで、昔はよくロックバンドのライブにも行っていました。最近は仕事が忙しく、年に2~3回くらいしか行かなくなりました。

—今後の事業展開に関しては、どのようにお考えですか。

**西久保** 「スピディフューザー」のようなコンパクトサイズの業務用芳香器は、まだまだ競合も少ないですし、大きな可能性をもっていると感じています。商品に磨きをかけることで、さらに大きな市場もみえてくるかもしれません。



「スピディフューザー」(写真中央)のほか、据置き型業務用ディフューザー「AirQ」(写真右)、スティックタイプの個人向け「リードディフューザー」(写真左)なども取り扱う

一方で、たとえばVRに香りを組み合わせたり、香りセンサーを利用した食品開発など、先端技術に“香り”を融合させた製品づくりなどにも、機会があれば携わってみたいですね。

—業容が拡大すれば、いまより会社規模を大きくする必要もありますね。

**西久保** はい。ただ、「0」から「1」をつくり出す「創業」と「1」から「100」に拡大する「守成」の能力は別だと考えています。

私は創業者としての役割をしっかりと果たしてから、「守成」ができる経営者に遠い未来に継承したいです。

—本日はありがとうございました。